



農地中間管理事業の取組が進んでいます

1 農地中間管理事業の取組について

当センターでは、市町や関係機関と連携し、担い手への農地の集積・集約を進める農地中間管理事業を推進しています。

本事業が始まってから6年目となりましたが、おかげさまで地域の皆様へのご理解が深まり、令和元年度は管内の取組実績が合計300haを超える見込みとなりました。

2 農地中間管理事業を活用しましょう

熊谷市下増田地域では、農地中間管理事業により、約23haの耕地が担い手ごとに集約されて効率的に配分された結果、水稲作での水管理や畦畔管理の作業時間が約7割に短縮されました。

今後は集約された農地を大区画化することにより、更なる作業効率の向上や経費の削減が期

待されています。

また、一定の要件を満たした上で、地域ぐるみによる農地中間管理事業を活用すると、担い手への農地集積・集約化に取り組む地域に対する機構集積協力金が交付されます。この交付金を原資に、水利施設や農道の改修、維持管理、畦畔の除去等に活用されています。

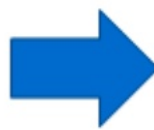
このように、農地中間管理事業を活用することで、農地の保全ばかりでなく地域農業の活性化にも役立っています。

農地中間管理事業についてのお問い合わせは、お住まいの市町村の農政担当課や農業委員会、県大里農林振興センター、または農地中間管理機構（埼玉県農林公社、電話048-558-3555）へ御連絡ください。

熊谷市下増田地域の例（ほ場を耕作者ごとに色分け）



集約前（2018年）



集約後（2019年）

表紙 農地中間管理事業の取組が進んでいます

2 P 食品バイヤーが選ぶ「取り扱ってみたい新商品」に上位入賞
食品表示調査員が活躍しています

3 P 全国担い手育成総合支援協議会会長賞受賞！(株)一心園
受賞おめでとうございます！ TATA GREEN (株)

4 P やまといも経営と組み合わせる短根ごぼう栽培の導入

もくじ

4 P ハウス内環境制御技術研修会(きゅうり)を開催しています

5 P 深谷市原田幸一郎氏 意見発表の部で県最優秀賞！
農作業機付きトラクタの公道走行について

6 P 農業経営よろず相談 お待ちしています

7 P 令和元年度に完了する県営事業地区の紹介

8 P 多面的機能支援事業の紹介

食品バイヤーが選ぶ「取り扱ってみたい新商品」に上位入賞

令和2年2月5日にさいたまスーパーアリーナで開催された「埼玉県農商工連携フェア」において、食品バイヤー等による県産農産物を生かした新商品の人気投票が実施され、45商品中の上位10位内に当センター管内の農業者が関わる商品が2つ選ばれました。

【第1位】

(株)和(かず)ナチュラルティスト(深谷市)のゆずとねぎのドレッシング。



ゆずとねぎのドレッシング

新鮮な深谷ねぎと毛呂山産桂木柚子をたっぷりと使用しており、ねぎの甘みと爽やかな柚子の香りが楽しめます。

《販売店舗（令和2年3月現在）》

道の駅はなぞの、深谷花園温泉 花湯の森、八木橋百貨店 地下1階食品売り場 他

【第10位】

ファームFUMI（熊谷市）のブルーベリーを使用して上富食品（三芳町）が製造した幸せのブルーベリーチーズスプレッド。



幸せのブルーベリーチーズスプレッド

農薬・除草剤不使用、有機肥料を使用して栽培したブルーベリーと濃厚なクリームチーズの相性は抜群です。

《販売店舗（令和2年3月現在）》

埼玉県農林公園農産物直売所

この他にも、当センター管内には県産農産物を使用した加工品はたくさんあります。道の駅や農産物直売所等で見かけた際は、ぜひ味わってみてください。

食品表示調査員が活躍しています

埼玉県では、食品表示の適切な運用を図るために、県民の皆さんに食品表示調査員を委嘱しています。

調査員の委嘱期間は約1年間で、今年度は20歳以上の県内在住の方100名に委嘱しました。

活動内容は、普段のスーパーや量販店での食料品のお買い物の際に、商品に表示されている事項を確認し、年に4回、農林振興センターへ報告していただくというものです。

ちょっと難しそうだなと感じたかもしれませんが、ご安心ください。調査活動をしていただく前にきちんと研修を行いますので、やる気があれば誰でもできる仕事です。

食品表示については、買い物の際に原材料や賞味期限などを気にされる方も多いかと思いますが、何気ない表示にも実は細かなルールが定められています。そういったルールを知ってい

ると、その商品についてより理解が深まり、普段の買い物の幅が広がるかもしれません。

調査員の方から報告していただいた情報の中で、正しい表示かどうか疑わしい場合は、職員が直接調査し、適切でない表示をしていた場合は正しい表示をするよう指導しています。

正しい食品表示をすることで、その商品のこととが正確に消費者に伝わるようになり、消費者も商品選択の幅が広がります。

これからも食品表示調査員の方のご協力をいただきながら正しい食品表示がされるよう努めていきます。



一心園(深谷市) 全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞！

令和元年度全国優良経営体表彰において、深谷市の「株式会社一心園（代表取締役 山崎素治氏）」が、経営改善部門で全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞されました。

この表彰は、農林水産省と全国担い手育成総合支援協議会が、意欲と能力のある農業者の一層の経営発展を図ることを目的に、優れた経営を実践している農業経営体を表彰するものです。

都道府県や都道府県農業会議、都道府県農業法人協会等から推薦のあった優良な事例の中から、学識経験者等で構成する審査委員会で各賞が決定され、昨年の12月に静岡県で開催された第22回全国農業担い手サミットにおいて授与されました。

株式会社一心園は、レタス・ブロッコリー・スイートコーンなどその時期にあった旬の野菜約10品目を一年中生産・出荷をしています。

平成24年9月に会社を設立後、渋沢栄一を中心的な考えである『道経合一（どうけいごう

いつ）』を経営理念として掲げ、一貫して人材を生かす経営、大型作業機を活用した効率的な輪作体系、作付ほ場の集約化、経費を抑えた販売体制などが高く評価されました。丁寧な農作業の姿勢が評価され、地域において信頼を得ています。

社長から率先してコミュニケーションを図り社員のモチベーションを高め、明るい職場づくりに努めており、更なる活躍が期待されます。



受賞後の記念撮影

(右より山崎素治氏、二田全国担い手育成総合支援協議会長、山崎みさる氏)

受賞おめでとうございます！

第10回埼玉農業大賞 農業ベンチャー部門

「大賞」受賞 TATA GREEN株式会社（熊谷市）

TATA GREEN株式会社（代表：坂井孝行氏、構成員10人）が、埼玉農業大賞農業ベンチャー部門の大賞を受賞しました。

坂井氏は元証券マンですが、平成23年に農業に新規参入、翌24年には法人を設立し、一貫してサツマイモおよびその加工品販売の取組を行ってきました。

会社設立当初から「売上を毎年倍にする」という高い経営目標を立て、周囲の遊休農地を活用した栽培面積の拡大や、加工施設の新設及び加工品の拡充を行ってきました。あわせて百貨店での販売促進やSNSでの情報発信など積極的なPRも行い、経営目標を達成してきました。

一方でサツマイモの加工品開発についても、品種や収穫後日数によって変わるサツマイモの食感に応じて加工アイテムを区分するなど「農家は食のデザイナーであるべき」という理念に基づいた

加工品開発を行っています。

「農業の職業イメージを変えるモデルになって、後継者不足などの農業が抱える問題を解決したい」と語る坂井氏。今後は海外展開も視野に入れており、ベンチャー起業家としての更なる活躍が期待されます。



IMOYA TATAで接客する坂井氏



埼玉農業大賞受賞式にて



IMOYA TATA 店舗

やまといも経営と組み合わせる短根ごぼう栽培の導入

熊谷市妻沼地域では、深い作土層を生かし、古くからやまといも栽培が盛んに行なわれています。やまといも経営は夏季が農閑期となるため、この時期を利用した収入補完品目の導入により、更なる所得向上が目指せます。

そこで当センターでは、JAくまがやと連携し、やまといもと組み合わせた品目として短根ごぼうの導入を支援しています。

短根ごぼうは、春に播種し、夏に収穫する栽培期間の短いごぼうです。出荷する際の荷姿が40cmと短いため、やまといもの収穫機が利用でき、労力も長ネギと同等に実施できます。また、やま

といも用の冷蔵庫を活用することで収穫物の保存ができ、余裕のある出荷調製作業を行うことができます。また、販売面では全農さいたまと連携し、県内の一次加工業者と契約販売をしていることから、夏季の安定した収入が確保されます。

平成30年に2戸の生産者による20aの試作から始まった取組ですが、比較的軽労力で取り組み、所得率の高いことが生産者に評価され、来年度は7戸に増える見込みです。

当センターでは、今後も地域の特徴を生かした農産物生産とほ場の高度利用を推進するとともに、効率的かつ安定的な農業経営を支援していきます。



販売商品



ごぼう栽培ほ場



ごぼう収穫作業

ハウス内環境制御技術研修会（きゅうり）を開催しています

施設園芸において栽培環境を植物に最適な状態にコントロールすることで、収量や品質を飛躍的に向上させる“環境制御技術”が近年、普及しつつあります。きゅうり生産現場でも炭酸ガス発生機やハウス内環境測定装置の導入が始まっています。

しかし、本技術は発展段階にあり、効果的に活用しないと増収に結び付かないということが課題になっています。

そこで、当センター、JAふかや、ふかや園芸協会は、環境制御技術導入済みもしくは今後導入を検討している深谷市内のきゅうり生産者を対象として「きゅうり環境制御技術に関する研修会」を定期的で開催しています。

本年度は、16人の生産者が参加し、外部講師による講習会や県内外の高収量達成ほ場の視察など計5回の研修会を開催しました。

当センターからは、環境制御技術導入実証ほ

（目標年間収量30t/10a）の成果等について情報提供しました。

研修会では毎回、意見交換を行い、生産者それぞれの持つ課題などを話し合いながら情報共有を図っています。

研修会会員の中には、年間収量32t/10a（昨年比24%増）を達成し、研修会の成果を発揮する会員も現れています。

今後、施設園芸において環境制御技術の導入が進むと思われます。当センターでは、生産者同士のネットワークづくりを通して、技術の向上につながるよう支援します。



講習会



視察研修

深谷市原田幸一郎氏 意見発表の部で県最優秀賞！

1 大里地区青年農業者研究大会

令和2年1月24日に、大里地区4Hクラブ連絡協議会（KFC）と共催で熊谷市文化創造館さくらめいとにて、令和元年度大里地区青年農業者研究大会を開催しました。

管内の青年農業者ら68名が参加し、「実況パワフルブロ農家～早生ブロッコリー打率10割を目指して～」と題したプロジェクトをふかや4Hクラブの秋山達哉氏が発表しました。また意見発表では「我が家の農業経営の発展と働き方改革」をふかや4Hクラブの加藤照雄氏が、「ゼロからの新規就農」を深谷市の原田幸一郎氏が発表し、原田氏が最優秀賞を受賞しました。

活動報告の部では、熊谷市に新規参入で就農した山崎秀良氏の発表やふかや4HCの地産地消を中心とした活動、ふかや西部野菜協議会青壮年部の研修活動についてなど多彩な発表がありました。

講演は「土づくりと施肥の基礎～目指すは健

康な土～」を東京農大発（株）全国土の会后藤逸男先生が管内の事例を交えて行い、土についての知見を深めました。

地区大会では、参加者の紹介や参加者同士の連絡先の交換なども行われ、今後の青年農業者同士の交流の礎が築かれました。

2 第26回埼玉県青年農業者研究大会

令和2年2月13日(木)、さいたま市民会館おおみやで開催された県大会では、各地区から選抜されたプロジェクト・意見発表（ともに7課題）が発表され、大里地区からは秋山氏と原田氏が出場しました。原田氏は就農の経過について迫力ある発表を行い、意見発表の部で最優秀賞を受賞、県代表として8月の関東大会の出場を決めました。



原田幸一郎氏

農作業機付きトラクタの公道走行について

ロータリー等の直装型作業機※を装着した状態のトラクタが、一定の条件を満たした場合に公道走行が可能となりました。周囲の方々への安全を第一に、注意して走行してください。

※直装型作業機：けん引タイプではない、ロータリー、ハロー、直装式ブームスプレーヤ、播種機等のトラクタに直接装着する作業機

Q.「一定の条件」とはどのようなものですか？

A. 灯火器類、作業機の幅、最高速度、運転免許などの確認が必要となります。詳しくはお近くの農機販売店や、地方運輸局、地方農政局、（一社）日本農業機械工業会にご確認ください。

例えば灯火器類なら・・・

作業機を装着して灯火器類が見えなくなる場合
⇒お近くの農機販売店で、灯火器類を増設しましょう！



【お問合せ先】

農林水産省生産局技術普及課 03-6744-2111
http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/kodosoko.html

（一社）日本農業機械工業会

日農工 公道走行

<http://www.jfmma.or.jp/koudo.html>

農業経営よろず相談 お待ちしてます

～農業経営相談所 大里農林振興センターサテライト窓口～

1 経営相談所とは？

埼玉県では、担い手の育成と活力ある地域農業の維持発展のため、農業経営の発展を目指す意欲ある農業者に対して、農林振興センターを窓口として経営相談活動を行ってきました。

平成30年度からは、県域組織として「**農業経営相談所**」を設置し、農林振興センターはサテライト窓口となり、管内の農業者の相談を直接受け付けています。

2 相談の進め方は？

農業者から相談を受けると農林振興センターは相談内容から経営課題を確認し、「**経営相談所の経営戦略会議**」で有識者からアドバイスを受けて効果的な支援計画を作成します。

その後、様々な経営課題の解決に向けて、税理士や社会保険労務士、中小企業診断士、デザイナーなどの様々な専門家とチームを組んだ支援を行います。

- ・経営を法人化したい！
 - ・設備導入に向け、適正な投資・資金調達をしたい！
 - ・知的財産を守りたい！
 - ・開発した加工品をブランド化したい！
 - ・中長期の計画を立てたい！
 - ・SNSやホームページを活用した商品PRをしたい！
- などの相談がありました。

4 相談した事例は？

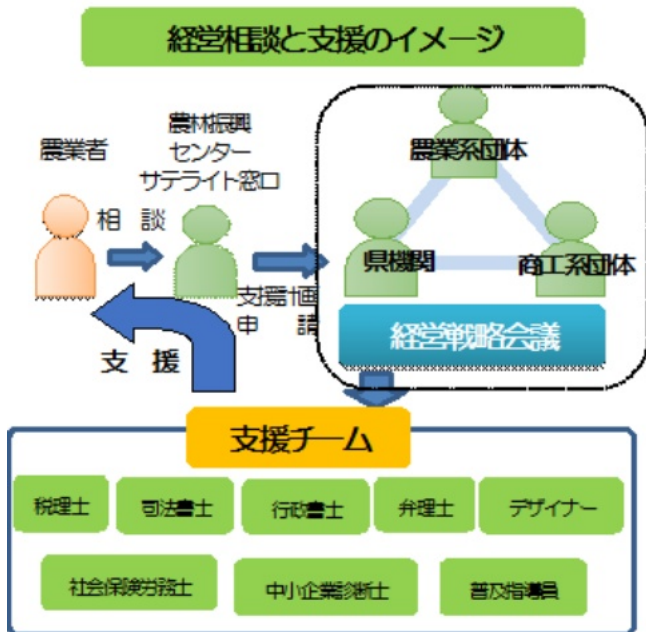
＜深谷市（株）マルチファームさん＞

管内では個別相談を積み重ね、平成30年度から、年間で約10件の経営の法人化を支援してきました。

その中で、平成30年に法人化を実現した深谷市の（株）マルチファームの福島さんにとっては、規模拡大に向けた人材の確保育成が経営の課題でした。

そこで、法人化後も社会保険労務士との共同支援によるフォローアップを実施し、雇用の確保、定着を目的に、就業規則、給与規定、育児介護規定、有給規定等を整備し運用しています。

その結果、現在は施設ミニトマト30a、露地野菜19.3haを社員13人、パート12人で経営を行っています。



3 どんな相談が受けられるの？

これまで、多種多様な相談が寄せられています。

- ・規模拡大に向け雇用を活用したい！
- ・事業の継承を準備したい！



（株）マルチファーム 福島さんご家族

将来の経営方針をお考えの方、ご家族やご友人がご検討されている方はお気軽に御相談下さい！

令和元年度に完了する県営事業地区の紹介 ～かんがい排水事業「豊里東部排水機場地区」～

本地区は、深谷市北部に位置し、一級河川利根川、小山川及び清水川に囲まれた輪中的地形をなし、利根川の氾濫によって堆積した肥沃な土壌に恵まれた埼玉県でも有数の野菜生産地として知られる畑地帯です。

地域の特産である「深谷ねぎ」は、埼玉ブランド農産物としての知名度も高く、特に寒さで甘みが増す冬の時期、甘くてやわらかい深谷ねぎのおいしさを堪能できます。

地区の基幹的な排水機場である「豊里東部排水機場」は、県営かんがい排水事業（昭和44～47年）により整備されました。しかし、築造から50年近く経過し、建屋や樋管などの土木施設は経年変化によるクラックや鉄筋の露出等が見られ、耐用年数を超過したポンプや電気設備の更新、補修が必要になっていました。

このため、施設の長寿命化、維持管理費の低減に資するため、平成27年度から事業に着手し、今年度で必要な更新、補修が全て終了します。

【概要】

受益面積：247.5ha(畑)

総事業費：782,000千円

事業期間：平成27年度～令和元年度

事業量：排水機場補修工1カ所（φ1400×3台）

【主な更新施設等】



ポンプ設備



建屋と除塵設備



排水樋管



操作盤等

多面的機能支援事業の紹介

1 はじめに

農業・農村は、県土の保全や水源のかん養などの多面的機能を有しています。しかし、農家の高齢化や混住化などにより、地域の共同活動によって支えられていた多面的機能の発揮に支障が生じてきました。

このため、多面的機能支払交付金を活用し、農地が農地として維持され、将来にわたって多面的機能が十分に発揮されるよう、地域ぐるみで農地や農業用施設を保全・管理する活動に対して支援しています。

この交付金を活用して農用地、水路、農道等の地域資源を地域の皆さんと一緒に守っていきませんか。

2 支援対象の主な活動

①農地法面（道路・水路）の草刈り



寄居町内

②水路の泥上げ



熊谷市内

③施設の軽微な補修



熊谷市内

④植栽による景観形成 など



深谷市内

⑤小学校との連携（収穫体験）など



熊谷市内

3 管内での実施状況（令和元年度）

活動組織数：88組織 活動面積：5,118ha

【問い合わせ先】農村整備部 整備支援・管理担当